



歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

昭和大学歯学部は創設30周年を迎えました。

大連医科大学創立60周年記念式典に参加して

歯周病学教室 山本 松男

10月5、6日(金、土)に行われた大連医科大学創立60周年記念式典および記念講演会に、本学歯学部より宮崎学部長、岡野病院長と共に参加してきました。大連医科大学は遼寧省省立です。大連には、他大学にも歯学部がありますが、大連医科大学口腔医学院がこの地域を代表する歯学部で、多くの人材を輩出しています。

大連医科大学口腔医学院は本学歯学部と提携を結んでおり、人材交流が盛んです。日本の他大学では、



東京医科歯科大学、岡山大学にも招待状が届き、参加した日本人は我々を含めて9人でした。日本で学位を取得した後に母校で教授職に就いた先生も多く、今後も日本との繋がりを大切にしていきたいという思いの表れであると受け止めています。

大連は旧満州という歴史的な背景があるために、日本語を話すことの出来る人が比較的多く、このことが現在の盛んな交流に役立っています。航空機で4時間弱(成田からの直行便有り)という交通の便利さから、進出する日本企業もたくさんあります。中国という大陸文化と、東洋という類似性、急速な社会基盤の発達と西洋文化の取り込みなど、空港から市内中心部までのほんの30分程度のバスでの移動だけでも、この国の急速な進歩がうかがい知れます。

今までに幾人もの歯科医が大連医科大学より来日し、昭和大学歯学部で研究を行ってきました。また、私達歯学部からは、昭和大学国際交流プロジェクト(歯学部編)としてD4学生や、選択実習(海外)としてD6学生を受け入れてもらっています。受入にご尽力をいただいているのが、大連医科大学歯学部補綴学教授の胡書海先生です。昭和大学では歯科補綴学の大学院を修了されました。

口腔医学院副院長牛衛東教授をはじめ、多くのスタッフと話す機会を得て、今後の双方のますます

の交流を確認しました。単なる知識、技術を中心とした交流にとどまらず、歯科医療、歯科学というものを別の文化背景を持つ社会の中で知ることは、今後の日本における歯科の在り方、展開の仕方を考える上でも大変有効なことであると思います。相互の学生・教員の交流を大切に、今後のますますの発展に期待をしたいと思います。

中村先生が明海大、木村先生が奥羽大教授就任

齶蝕・歯内治療学教室 松本 光吉

中村幸生准教授が明海大学歯学部歯内療法学講座担当教授に、また木村裕一准教授が奥羽大学歯学部歯内療法学担当教授に10月1日付で就任した。

中村先生は1988年3月に東京医科歯科大学大学院を修了と同時に本学の歯内療法学講座の助手として赴任し、講師を経て1995年に助教授になり、19年6ヶ月間教育、研究、診療に尽くした。その間1999年8月から2年間スウェーデンのマルメ大学にエムドゲンの病理組織学化学的研究の為に留学し、共同研究を行った。

木村先生は1994年4月に九州大学歯学部から本学の歯内療法学講座の助手として赴任し、講師を経て2001年4月に助教授になり13年6ヶ月間教育、研究、診療に尽力した。その間1994年4月から2年間アメリカのカリフォルニア大学アーバインレーザー研究所に留学した。

両先生が同じ時期に他大学の教授として赴任する事は本人や先方の大学にとっては大変喜ばしい事ではあるが、本学、特に人材が流出した教室にとっては大きな損失となる。教授クラスの優れた専門家を育成するには多くの時間、労力、研究費がかかる。優れた研究者を育成する環境作りも大切であるが、能力のある者が流出しない組織作りも大切であると思う昨今である。



写真は10月28日京王プラザホテルで行われた祝賀会。

昭和大学名誉教授懇談会開催される

歯学部長 宮崎 隆

去る10月9日(火)午後6時からホテルオークラのコンチネンタルルームにおいて、平成19年度名誉教授懇談会が開催されました。名誉教授の規程が改訂され、本年は22名の先生方があらたに名誉教授の称号を授与され、総計87名となりました。懇談会には例年よりも多い40数名の名誉教授が出席されました。

最初に細山田学長が大学の近況について、18歳人口の減少や学部の増設で受験生確保が難しい時代になってきたが医系総合大学の特徴を生かして乗り切っていきたいと挨拶されました。引き続き小口理事長が学部の壁を無くして日本一の大学を目指したいと力強い挨拶をされ、新しく名誉教授になられた先生方をお一人ずつ紹介されました。名誉教授を代表して最長老の川上保雄先生が、昔名誉教授制度を始めたときには僅か2名であったのにこの様に発展したと挨拶され、大学の益々の発展と先生方のご健康を記念して乾杯の音頭をとられました。

歯学部からの出席は、和久本貞雄先生、福原達郎先生、須田立雄先生、長谷川紘司先生、芝 燁彦先生、南雲正男先生、そして今年3月に退職された川和忠治先生、宮下 元先生でした。各先生方が一同に会したのは昨年歯学部創設30周年式典以来ですが、楽しい時間を過ごすことができました。先生方の益々のご健康をお祈り申し上げます。



白菊会連合会総会開催される

口腔解剖学教室 中島 功

平成19年10月8日(月)、朝から小雨が降りしきる中、白菊会連合会に加盟する10大学12学部が参加して、日比谷公会堂にて『白菊会連合会 平成19年度総会』が開催されました。

白菊会の会員は高齢者が多いため天候が雨ということで出席者が少ないのではないかと心配されましたが、約1000人収容できる日比谷公会堂の一階席はほぼ満席となりました。昭和大学は6月に大学独自の「白菊の集い」を開催しているため、総会への参加者は少ないのですが、今回歯学部からは20名

の会員と同伴者2名の計22名が参加されました。

総会は13時30分より今回の当番校である東京大学医学部の廣川教授による開会の辞で始まり、次いでこれまでに御献体いただいた物故会員の方々のご冥福を祈り参加者全員で黙祷を捧げました。さらに東京大学医学部長、文部科学省高等教育局医学教育課長、日本解剖学会理事長、日本篤志献体協合理事長、篤志解剖全国連合会会長、白菊会連合会会長代行の挨拶があり、事務局による会務報告、加盟大学の紹介が行われた後に、次担当番校



である慈恵会医科大学教授による閉会の辞により終了しました。その後15分ほど休憩をはさんだ後、東京大学名誉教授である養老孟司氏により「白菊会と私」というテーマでの約30分の講演が行なわれ、15時30分に幕を閉じました。

平成19年度解剖慰霊祭開催される

口腔解剖学教室 江川 薫

平成19年度解剖慰霊祭が10月16日(火)午後2時より上條講堂で行われました。本年度の慰霊祭は平成18年9月から平成19年8月の間に亡くなられた系統解剖または病理解剖のために大学に御遺体を提供された物故者を慰霊するために、御遺族をお招きしてしめやかに挙行されました。歯学部の解剖学実習のためにこの1年間に献体された物故者は24柱でした。歯学部の解剖学実習は4月から6月にかけて行われ、解剖させていただいた御遺体に感謝の意を込めて歯学部2年の学生全員が参列しました。

開会の辞に続いて、解剖のために大学に提供して下さいました物故者の御冥福をお祈りして黙祷が捧げられました。昭和大学代表として医学部第一解剖学教室の塩田教授が祭文を述べられ、続いて医学部、歯学部、保健医療学部の学生代表が弔辞を述べました。歯学部は2年生の多木陽子さんが学生代表として弔辞を述べ、解剖学実習の経験をふまえて勉学に専念することを御霊に約束しました。細山田学長より参列者に対して御挨拶が述べられ、最後に参列者全員が献花を捧げて解剖慰霊祭は終了しました。



南カリフォルニア大学での研修を経験して

歯学部4年 安藤 彰啓

8月26日から9月2日までの約1週間、アメリカの南カリフォルニア大学(USC)で海外研修を行ってきました。1週間というあまりに短い期間だった上に、日本に帰国した次の日から前期の定期試験が始まるという厳しいスケジュールでした。しかし、USCは8月27日から新学期が始まるということでしたので、この強行スケジュールを執行する決心をしました。

滞在中はUSC歯学部の Associate Dean である Dr. Eugene Sekiguchi が様々な所を案内してくださいました。過去に American Dental Association の会長を務めた経歴を持つ高名な先生ですが、とても friendly で、言葉通り「皆」から慕われていました。私も1週間の間で数多い Dr. Sekiguchi のファンの中の一人になってしまいました。

USC はまだ夏休みが明けたばかりで1年生のオリエンテーションが中心に行われていて、2年生以上の方は少しPBLのク



ラスがある程度で実習等ははまだ開始されていませんでした。私は2年生のPBL(小児歯科のケース)に参加したり、1年生のオリエンテーションに参加したりして多くの学生と交流を持つことができました。また、Dr. Sekiguchi に紹介していただいたおかげで、多くの先生やスタッフの方々とも交流を持つことができました。私は自分から積極的に友達を作ったり、先生に質問をしたりと、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。

滞在期間はほんのわずかでしたので、歯科的な知識を学んで来るというよりは、海外で歯科医療に関わる様々な人と知り合い、交流を持つことで将来、globalな歯科医師になるきっかけにしたいという意識で1週間を過ごさせていただきました。最後になりますが、今回の国際交流プログラムを実現させていただきたく、深く感謝いたします。

学園祭(旗が岡祭・いぶき祭)に参加して

大学院4年(歯科理工学専攻) 片岡 有

10月12~14日(金~日)に旗の台キャンパスにて旗が岡祭・いぶき祭が開催されました。当日は小雨に見舞われましたが、3日間を通じて多くの方が来場されました。歯学部学生が活躍している様子も多々見受けられました。中山堯盛君(D5)は文化祭実行委員としてステージ上で学園祭を盛り上げ、学園祭最後のイベントであるビンゴ大会まで司会として活躍

していました。また、歯科医療研究会は大沼光司君(D3)を中心に歯科検診、ブラッシング指導、咬合圧測定を行い、来場した多く



の方々を受診されました。親子連れも目立ち、スタッフによる説明に熱心に耳を傾けていました。

そして、昨年に引き続き歯学部学生有志が模擬店を出店し、新田雅一君(D4)を中心に準備から出店までこなしました。今年度は企画当初よりラーメン店を出店するというので、山田智之君(D5)が旗の台のラーメン屋に足を運び、スープ作り



から麺あげまで一から学び、自信の味を提供することが出来たようです。その結果、評判は大変高く客足は途絶えることがありませんでした。期間中は2年生から6年生まで幅広く手伝ってくれて、学年を超えた交流も深まったようです。新田君は「いい経験になりました。是非来年も続けたいです」と話しています。



部活動での試合の合間に参加する学生もいて、予想以上に歯学部学生の参加が多く感じました。こういった機会に学園祭に参加して活動できることは大変有意義だと思います。

診療統計(平成19年9月分)

医事課課長 長谷 孝義

| | 患者数 | 1日平均 | 前月1日平均 | 前年1日平均 |
|------|--------|-------|--------|--------|
| 外来患者 | 15,823 | 688.0 | 671.3 | 707.6 |
| 入院患者 | 404 | 13.5 | 13.5 | 16.5 |

行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 11月 9日(金): 武重優秀クラブ賞表彰式
- 11月11日(日): 歯学部入学試験(推薦・編入)
- 11月15日(木): 昭和大学創立記念日
- 11月17日(土): 父兄会 秋季部会(旗の台)
- 12月 1日(土): 昭和歯学会例会(洗足キャンパス)

シドニー大学留学記

歯科理工学教室 柴田 陽

2006年7月から1年間、シドニー大学歯学部
Biomaterials Science Research Unit の Michael V. Swain 教授のもとでお世話になりました。Swain 教授はニュージーランド唯一のデンタルスクールであるオタゴ大学歯学部の教授を兼任されていて超多忙にもかかわらず、シドニー滞在中は私も含めて本当にスタッフの面倒をよく見てくれます。若者を育てるといふ情熱と責任感は大変なもので、我々も見習いたいものです。

さて肝心の研究内容ですが、こちらでは象牙質の再石灰化とインプラント表面に析出する構造物の分析を行ってきました。メインキャンパスに Electron Microscope Unit という研究所があり、もちろん電顕がたくさんあるのですが、様々な分析装置が付属しているので、画像と分析結果を直接リンクさせることで非常に説得力の高いデータが得られます。この大学で最もパワフルなユニットで、私も含め多くの研究者が学部の垣根を越えて実験をしています。面白いのは、これらの研究機器を利用したい時は大学のホームページを通じて予約するシステムになっており、利用1時間あたり30ドルほど徴収されます。とりあえずやってみよう的な研究計画を立ててしまうと莫大な額を請求されることにもなりかねませんので、ポスモなかなかいい顔をしてくれません。はじめは非常に戸惑いましたが、お金を払う代わりに担当者がしっかり教えてくれますし、こちらも真面目にやらざるを得ないので、慣れてくるとなかなか合理的なシステムのように思えてきました。平均的オーストラリア人とくらべると、日本人は本当に真面目で、割りにあわないことでも平気でやってしまうのですが、我々の社会全般が個々の勤勉さとウェットな人間関係に頼っている感があり、システムの整備がもう少し進むと良いでしょうか。

オーストラリアでは日本のイメージはとても良いように感じます。これは優秀な工業製品によるところが大きく、日本製であるということが家電でも人間でも品質保証であるようです。私は日本からパナソニックのレッツノートというモバイルPCを持って行ったのですが、こんなに小さくて高性能なモデルはあまり一般的でないらしく、ラボの仲間が腰を抜かすほど驚いていました。日本はほんとうにお金持ちでいい国ですね、気候以外は。外国で暮らしていると色々な場面で日本人であることに助けられます。特に日本のパスポート！こんなに自由に世界中にいけるパスポートは多分これだけでは、アメリカはどうなのでしょう？しかしおそらくは世界最強。これも先人の努力、ありがたことです。せっかくの特権ですから、若い先生方は積極的に外国にでてみてはいかがでしょう。留学は勉強だけでなく、きわめて客観的な視点で自分と祖国のアイデンティティーを確認できる良い機会

です。このところ世界各地に姉妹校が急増中の昭和大学歯学部のことですから、大学院生や若い先生方の留学をますます支援していただきたいと思います。

受賞

広報委員長 五十嵐 武

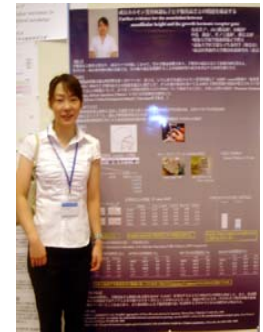
・趙 宝紅(口腔生化学教室
大学院4年生)

平成19年9月16日～20日、米国ホノルル(ハワイ州)で開催された第29回米国骨代謝学会(American Society of Bone and Mineral Research) 学術集会において、Young Investigator Awardを受賞されました。演題名「Transcription factor IRF-8 is a negative regulator of osteoclast differentiation in vitro and in vivo」



・友安 洋子(歯科矯正学教室
大学院3年生)

平成19年9月19日～21日、大阪で開催された第66回日本矯正歯科学会において、優秀ポスター演題賞を受賞されました。演題名「成長ホルモン受容体遺伝子は下顎骨高さと関連する」



昇任・認定医取得

広報委員長 五十嵐 武

・加来正行(総合診療歯科)

10月1日付で助教(員外)に採用されました。

・久光 久(齶蝕・歯内療法学教室 教授)

日本歯科審美学会認定医を取得されました。

編集後記

口腔生化学教室 山田 篤

とても暑かった夏も終わり、半袖で外を歩くには少し涼しくなりました。今回の記事の中にもありますが、10月12～14日まで旗の台キャンパスにて学園祭が開催されました。歯学部学生有志の人達もラーメン店を出店しており、一杯食べてみましたが、これが絶品。お疲れさまでした。食べながらふと、学生だった当時学園祭でたこ焼き屋を出店したことを思い出しました。学校に近い人の家に集まり、小麦粉と卵とだしの素でたねを作り、ゆでたたこを小さく切ったものとネギなどの具材を夜遅くまで用意しました。今では大変いい思い出となっております。最後になりましたが、今回の編集にあたり大変ご多忙の中、ご執筆して下さった皆様に心から感謝申し上げます。